



沖縄知能工作指導法研究会報告 2011. 4. 23

昨年の夏以来、2回目の沖縄での研究会を行なってきました。今回も2011. 4. 27の沖縄タイムスにのりましましたので、その記事を掲載し報告とします。

Newspaper in Education

板とボルトで頭の体操

知能工作研究所が公開授業



板遊びを通して子どもたちの創造力を高めた
研究授業 23日、那覇市・久茂地公民館

子どもの創造性促す

工作を通して子どもたちの創造性を高めようと、知能工作研究所(神奈川)が23日、那覇市の久茂地公民館で研究授業を開き、県内の幼稚園児や小学生ら18人が頭の体操に挑戦した。和田秀巳所長は8枚の板とボルト、ねじを使い「いろいろな形を作ってみよう」と呼び掛け。子どもたちは完成図を見ながら、思い通りに板を組み立て「できたー」と歓声を上げていた。和田所長は、板とねじで

きるいろいろな形の完成図を配り「絵を見て、同じように作れるかな」と提案。子どもたちは絵と見比べながら、8枚の板を組み合わせて形作りに没頭した。

園児らは、ねじとボルトで板をつなぎながら「あれ、二つのねじの長さが違つぞ」「上手にできた! 崩したくない」など、それぞれの感性で板遊び。

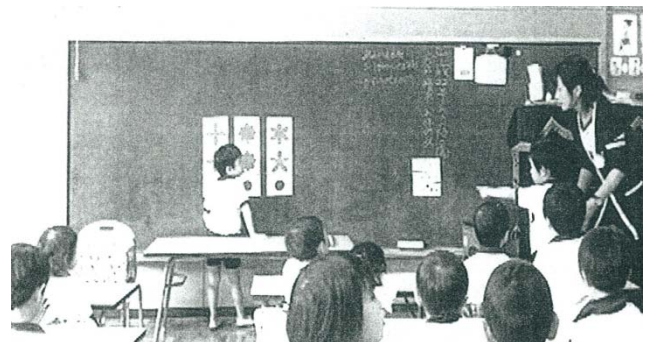
和田所長は「ねじの長さが違つのは、なぜかな」「どこをはずせば、次の形が簡単に作れるんだろう」など、時折ヒントも与えながら、子どもたちの創造性の広がりを感じた。

その後の授業分析で和田所長は、園の教師や保育士らに「ダイナミックな授業」の重要性を指摘。「自由にさせる」と「好き勝手させる」とは違つるとし、決められたルールの中で、子どもたちに考える自由を与えてほしいと強調した。手で「ねじる」行為は脳に刺激を与えるが、最近ほねじつたり、ひねつたりする行為が少なくなつたと述べて、「折り紙などもよい教材だといわれる。だが一辺倒に折る紙をさせるのではなく、子どもそれぞれが発達の度合いに応じた教材を与えてほしい」と要望した。

松本幼稚園指導法研修会報告 2011. 5. 12(木)

授業参観を兼ねた指導法研修会でした。雨の中、400人以上のひと・人・ひと。ヨチヨチ歩きの子や赤ちゃんでワンサワンサ。副園長先生のオリエンテーション(授業の見方)があつてから、授業開始。各クラスの授業は下記の12クラス。園児の歓声に、幸せいっぱい。今回は、懐かしい教材も見ることが出来ました。

組名	担任名	段階	時限数	因子	教材名
蓄A組	佐々木 美育(新)	TS	(5-2・4)	CVU/CVR/NVS	YC「お食事ごっこ」
蓄B組	南 香織(2)	TS	(5-2・4)	CVC	SI「かにのおうち」
蓄C組	須之内 里美(新)	TS	(4-2・4)	EVU	SI「やまとうみ」
蓄D組	篠崎 智代(3)	TS	(5-1・4)	CSU	SI「はなかご」
蒲公英組	高橋 真実(新)	FJ	(5-2・6)	NVS	SI「ちようちよ」
紫雲英組	飯島 美菜(4)	FJ	(5-3・6)	ESU	SI「おなじしるし」
向日葵組	藤井 加奈子(新)	FJ	(4-1・6)	NVS/EVI	YC「迷路遊び」
紫陽花組	小野部 淳子(6)	FJ	(5-1・6)	EVS	SI「はめぐみえちず」
百合組	渡邊 祐未(新)	FS	(4-3・6)	NBS	SI「かみしばいづくり」
薔薇組	峯川 裕可(3)	FS	(4-2・6)	NSS/NVS/CSR	YC「3角パズル遊び」
桔梗組	新倉 彩乃(4)	FS	(4-1・6)	CVR	SI「ロボットのがつたい」
紫苑組	西澤 美徳(2)	FS	(4-2・6)	CSI	SI「れしやのしていせき」



園長先生が全クラスを回りながら、後ろからそつと園児を見守っている姿がとても印象的でした。一時間の授業後、父母に向け副園長先生の講演があり、午後は先生たちだけの研修会。それぞれ自分が行なつた導入教材や発問、展開を発表し、因子や教材の問題点などを話し合つた充実した一日でした。文責和田